□ 信濃町、妙高市、飯綱町で地域密着のスーパーを経営。「事業承継 特別保証 | でビジネスを未来につなぐ

コロナ禍で買い物需要の高まりを感じて いる反面、「外食産業の苦労を思うと、 早く世の中が元通りになるのが健全だと 思う」と大岡社長



株式会社第一スーパー



1953 年信濃町出身。東京のシステム会社に就職したのちリターン。大手スーパーに入社して小売・流通の基本を学び、父が経営する第ースーパーに33 歳で入社。1992 年、代表取締役就任。





無料で運行する「お買物送迎バス」は大好評。店舗に着いて1時間ほど買い物した後、復路のバスに乗って帰る仕組みだ

高齢のお客様が多いこともあり、すぐに 食べられる惣菜のほか、焼くだけでおい しく食べられる味付け済み商品も豊富

月一回程度、人気店コストコの 商品を販売する「コストコフェ ア」を実施。長野市からもお客 様が訪れるほどの盛況ぶりだ



採算度外視の送迎サービスで暮らしを支える

信濃町、妙高市、飯綱町で親しまれている「第一スーパー」。 創業は東京オリンピック前年の1963年。地域唯一のスーパーとして生鮮食品から日用雑貨まで豊富に揃える、インフラとも言える存在です。最近はコストコ商品を販売する「コストコフェア」で人気を集めています。

事業のルーツは、代表を務める大岡敏久さんの祖父が 信濃町で創業した鮮魚店でした。時代の変化を見据えて 1963年にスーパーへと業態を変え、最初に信濃町に2店舗 を開店。のちに小布施、若里、東和田など市街地にも出店 しましたが、現在は地元である郡部に絞って古間店(信濃 町)、妙高店、飯綱店の3店舗を運営しています。

地域にはかつて他のスーパーもありましたが閉店が相次 ぎ、現在は同店のみに。個人商店も少なくなりました。そ うした背景から、市街地のスーパーに比べてかなり広い範 囲からお客様が訪れるのが特徴です。

しかし高齢化が進む中山間地域ゆえ公共交通機関がなく、自家用車に乗れない高齢者も多くいます。「家の近くからお店まで送迎してほしい」。そんな要望が多く寄せられたことから、8年前にマイクロバスを使った無料の往復送迎サービスをスタートしました。大型店の古間店では、現在1日2便を週4日運行しています。全便コースを変えて広範囲を網羅することで、できるだけ多くのお客様の足になることを目指しています。

「社会貢献や生存戦略を意識したわけではありません。シンプルに『困っている人が多くいるからやらなくてはいけない』、それだけです。昔はうちに買い物に来てくれていた人たちが、高齢になって車に乗れず困っている。それを思うと、やるしかないですよね。無料送迎ですから採算は合いません。その点にこだわっていたら、始めなかったと思います」と大岡さん。地域に根ざした地道な努力が奏功し、長年黒字経営を達成しています。

移動スーパー「とくし丸」システムを活用

一方で、高齢のお客様の中にはバス停まで歩くこと、買い物袋を下げて歩くことさえ難しい人もいます。そんなお客様のために導入したのが「移動スーパーとくし丸」。軽トラックの荷台いっぱいに食品や日用品約400品目、計1,200

~ 1,500 点を積み込んで、お客様の自宅にほぼ横づけする スタイルで販売を行います。営業は週4日。こちらも毎日 コースを変えて、広い範囲を回ります。

「必要とする人にできるだけ届くよう、コース作りには時間をかけました。何人かで手分けしてエリア内の一軒一軒に『移動スーパーが来たら利用しますか?』と聞いて回って、ニーズがある世帯をマップに落とし込んでいったんです。買い物に行けず困っていたお客様は、助かっているのではないでしょうか

徳島を拠点とする「株式会社とくし丸」と提携し、同社の移動スーパーシステムを利用。販売や運転を行う個人事業主と業務委託契約を結び、店舗の商品を預けて販売車に乗せ、売上に応じて報酬を支払います。商品は店頭価格に10円上乗せして販売。売れ残った商品は店舗に戻して販売するので、ロスも出ません。

「導入は4年前です。それ以前も移動販売を行っていましたが、採算が合わなかった。とくし丸のシステムなら個人事業主と業務委託を結ぶので、当社が人件費や燃費を負担する必要がないのがメリットです。いわば、売り場が拡張したような感覚ですね」

「地域密着で暮らしを支える」という同社の理念が現れた、 送迎バスと移動スーパー。最近では隣の戸隠地域にスーパー がなくなることから自治体に相談を受け、戸隠までの新た な送迎ルートや移動スーパーの増便を実現できないか検討 中です。地域の食を一手に担うスーパーとして、孤軍奮闘 を続けています。

特別保証の利用で事業承継に光を

社長に就任して30年、現在69歳を迎えた大岡さん。 2024年をめどに、次男の井原真さんに事業承継を予定しています。井原さんは他業種の会社を経験したのち第一スーパーに入社し、現在は店舗で経験を積んでいます。

一般的に、事業承継の際は経営者保証(金融機関から融資を受ける際に経営者が保証人となること)も負う必要があり、後継者にとって大きな負担となっています。同社は今回の承継にあたり、信用保証協会による「事業承継特別保証」を利用。一定の条件を満たした企業に対して信用保証協会が保証を代わり、2人の経営者保証を不要にするものです。県の「事業承継・引継ぎ支援センター」から提案

され、すぐに利用を決めました。

「私の時代の常識では、会社の借金の責任を負う役割は、やはり社長しかいなかったんです。返せなかったら自分がなんとかしなければいけない、抵当に入れた自宅がなくなるかもしれないということは、常に頭にあった。オーナーとして当たり前のことだと思うんですが、それでもこの特別保証を使えば次の代は私のように苦労せずに済みますし、思い切った挑戦も自由にできるでしょう。保証を負っていると、一か八かの挑戦はなかなかできないですから。特別保証を使うことで、すごく肩の荷が降りました」

事業承継特別保証を利用できたのは、順調に利益をあげて経営を続けてきたからこそ。今後のビジョンを尋ねると、今まで同様に地元のお客様を大切にした答えが返ってきました。

「従来のように、店をどんどん大きくしていく方法は行き詰まっています。やはり、地元のお客さんの利便性をどう高めるかを追求していくことが重要。そのために商品の品質とボリュームをしっかり満たしていけば、なんとか商売になると思います。一方で、amazon など e コマースがさらに普及すれば、数年後には実店舗が必要なくなる可能性もあります。そうした社会変容の可能性も視野に入れながら、できることを続けていきたいと思っています



荷台にぎっしり商品を詰めて 各家庭を回る「移動スーパー とくし丸」。鮮度の都合で出 動範囲は限られるが、外出で きない高齢者に大好評だ

「第一スーパー古間店」外観。 豪雪地帯ゆえ、雪の退避場を 兼ねて駐車場は150台分と 広く確保している。お盆や年 末年始の繁忙期には駐車場が いっぱいに



株式会社第一スーパー

創業 | 昭和38年(会社設立)

事業内容 スーパーマーケット経営 (信濃町1店舗、飯綱町1店舗、妙高市1店舗)

〒 381-0038 長野県長野市東和田 492

Tel 026-243-5587 HP http://daiichi-super.com